



水滸畫傳

上

~ 13
3560
1



門 へ 13
號 9560
卷

柳水亭種清著

葵園北溪画



早稲田 図書館
3
藏

水滸画傳 全三冊

東都書肆

甘泉堂板



造水 滸傳也。洪信が龍虎山の邪小亂をて。宋公が
 義見 注の義小治る。邪は是蛇小く義は是蟻也。蛇の
 百丈小く莫太もも。六朔み看る。背富士の麥莖
 工手小髻髻蟻の寸分小く至小あれども或は淫あひい
 淵もも邪の大あらん成やすく。義の小あらん成難し
 それ小と以て大は勝と。貴童小義と勧て。百八傑小
 かのもも。の力と勳せら序よとと有介

安政三丙辰歳正月
 柳水亭種清識



龍
虎
山

响^{ひび}を^きか^るる^か
 小^こや^やく^く振^ふ動^{どう}
 羅^らま^ま再^{さい}び
 起^おき^の大^{だい}息^{いき}
 次^{つぎ}亦^{また}峻^{げん}岨^{しん}
 騎^き攀^{はん}
 名^なを^なを^な



吞^のん^のと^とま^ま
 勢^{せい}方^はひ^ひ中^{ちゆう}太^た尉^い
 驚^{おど}怖^ろて^て顛^{てん}伏^{ふく}
 更^{さら}ふ^ふ活^{くわ}く^くる^る本^{ほん}
 性^{せい}も^もく^く稍^{しやう}寸^{すん}

忽^い猛^{まう}虎^こ毒^{どく}蛇^だ
 顛^{てん}出^{しゅつ}て^て洪^{こう}信^{しん}と
 幸^{さい}苦^くを^を恨^をみ^みた^たれ^れ
 中^{ちゆう}太^た尉^い洪^{こう}信^{しん}を
 勅^{しき}使^しと^とし^して^て江^{かう}西^{せい}信^{しん}州^{しゅう}の
 龍^{りゆう}虎^こ山^{さん}小^{せう}遣^{せん}道^{だう}上^{じやう}真^{まこと}人^{ひと}と
 迎^{むか}へ^へんと^と登^{のぼ}山^{さん}ま^まる^るふ^ふ其^{その}
 太^{たい}宋^{そう}の^の仁^{にん}宗^{しゆう}
 皇^{かう}帝^{てい}万^{まん}民^{みん}の
 災^{さい}を^を拂^{はら}え^え爲^なす

其二

太宋の嘉祐三年
 都さうんふ疫癘流行
 祈禳をさんふ太尉
 洪信詔書を奉て
 信州を龍虎山上の
 張真人を請待のふ既ふ山峻ふ
 よふ湯ふ山峻ゆ徑組るれ心此ふ
 怠慢くと疑狐ふ雨風起り妖虎龍



現出白眼紅口怖くを謂ふる脚跡々ふ
 地ふ着くと又二三十歩移る比頭黄牛
 小跨る青童兒山軸と出来ふ
 喃と叫止真人の野在と
 問ふ早已ふ鶴ふ駕
 せられ都へ行ぬと
 答へて疑惑
 忽心ふ満
 て進退
 茲ふ悩
 るん
 又愚ふ
 らむやまふ
 愚ふ



史家
邨

教頭王進高俅が太尉
の官を昇ると誤て来
賀せし是が為小怒を
受て性命明日小極と
三十六計走を上とせし
母の教ふ心と決し朝霧
深き小母子屏共小西華門と
紛出延安府小向て馬を馳し
旅行一月計ふしと宿と求
やらぬ日ハ早暮と愁て
再び遠く望む林中策々



とて灯の閃々小喜
と得馬と速りて来
て見れば二三百株
の柳の内小土牆
高屋露と
宿とむ小主の
太公痛
切小歎
待報ひふ
已か貯ふ武
藝と以て教へ
たりその少年ハ
此史太公が一個の
伴九紋龍史進
なり





一竿の柿一對の胡床それ
 せら雪小埋て真偽殆見
 明くは是水泊の出張
 ゆく。酒店の主ハ朱貴
 へ豪傑林冲茲小泊
 路と問ハ一枝の號箭
 飛脚とハ驛間ハ
 迎の早舟
 出来りぬ



梁の泊酒
 山の口店

景陽園

故郷と思ひ柴進宋公不別と告て陽谷縣の
 界の酒店小慢て不遇園をこり酒を
 飽を飲で足踏々景陽園の半喫小至ハ

天の哺をききて雞目をね眼中也指
 るを睡を抹と弾き晴と鎮て恥と現
 この園上小大蟲在て。

人々傷小断文讀
 由了らむ打笑。

此蜂をも怖
 色を上る小岩下
 来る惟風日の晚了

踏分
 林を
 啼て出



大虎

獲

嘯

手と開け双

の耳と引掛

右の脚を

踢倒せ

虎の岩根小

打伏て吼声ハ恰も落る雷の

像。武松ハ拳ハ息吹ク。

續けて打こと六七十。

恁る奇代の惟力小

打殺されて

有繫の猛獸

哀れ息絶声止り



飛雲浦



武松再び流罪せられて
 孟州に至る路下官們
 惟く弄目をせし精量
 一と飛雲浦の橋上橋
 下小四個を殺し
 その仇人と听
 誌け取て返て
 鴛鴦樓に
 血を濺ぎし
 獨身獨行誠ふ
 豪傑といふ

目録

及時雨 宋江 明
 入雲龍 公孫勝
 跳澗虎 陳達
 小霸王 周通
 霹靂火 秦明
 小旋风 柴進
 白日鼠 白勝
 掉翅虎 雷橫

神醫安道全
 九紋龍史進
 花和尚魯智深
 豹子頭林冲
 鎮三山黃信
 青眼虎李雲
 鼓上蚤時遷
 赤髮鬼劉唐

上の上之七

王 潘 竿 孟 康
 活 閻 羅 阮 小 七
 智 多 星 吳 用
 神 行 大 保 戴 宗
 母 夜 叉 孫 二 娘
 雙 尾 蝎 解 寶
 捨 命 三 郎 石 秀
 黑 旋 風 李 逵
 鐵 叫 子 樂 和

立 地 太 歲 阮 小 二
 短 命 二 郎 阮 小 五
 錦 豹 子 楊 林
 菜 園 子 張 青
 兩 頭 蛇 解 珍
 病 關 索 楊 雄
 石 將 軍 石 勇
 浪 裡 白 跳 張 順

及時雨宋江



義の高天より昂く仁の大地より厚きも自妻と
 養ふも文袋の内小毒蜘蛛と妻と他の妻と助ふ。
 花燈の前小悪蛇と化せ酔て反詩の災を
 醒せと夢ふ
 天巻の
 賜降る。

斬るも破るも焼
 るも爛るも奇る
 るも此怪

天罡星三十六
頁之内天魁星

及時雨宋江

此一個の鄆城縣の押司として三祖宋家郎小住も寐食出入仁信礼義を捨ざる
緯恰も聲と響の像一郷小困窮の民あれば財貨を以て是を助け国小危急の士
あまの身を抛て彼を救ふ是がふる山東河北の諸賓呼て及時雨と稱讚如何る夕
因にお閻婆惜と妾として招文袋の諱より脚下小跛蟻一頭殺る仁者も邪る毒婦
が行状とぬきま道る怒て樓裡小妾を殺きて泣て驛上小士卒と斬數百の戰場と
経と雖自己刀小纂り生涯只此二遭る公の難と道んと清風山小遊び一機日劉
高が妻と救ひも奸婦却て恩を仇として上元燈花の下小捕らる百千万の灯もる罪
と照らる囚路小花朵体が救ひを得れど父の災と扱小道る遠く江州の流人

とる。醉中一首の反詩を吟とて黄文炳小毒察せられ事斬罪小極りく身を
法場の又が下小早投出を機會こそあれ晁蓋吳用侂菟来て首尾全くと濟脱と
梁山泊小誘はれ托塔天王半途小没とて遂小百有八個仁小伏一義小頗さ拜
して山首と仰尊む宣和二年天碑降て梁山泊の二百八個天罡地煞の星と緯
道士が諷誦小顯然う宿大尉が奏小頼て全く天子の大臣とる遼国賊と始
とて河北淮南西南と五年七月小征伐し国と平均民を安穩一凱歌を奏と
武德太夫楚州の安撫使小封せられも四毒宦が酒小伏て既小天小帰せんとも
响潛小后の汚名と恐る李逵と招て毒酒と飲しあ共小楚州城の南门外る墓
兒洼小葬送せし忠烈義濟靈應候と追号とせられとも

神醫安道全

宋の代に執て篇鶴華陀に左り小出る術
あるも巧奴が脚疾小發足と悩まされて張順が
劍尖の葉と得り鳴呼術をせしむ

百薬の外

と唯惜

の家の壁に

上小血とゆ

罪とそぎ文字小

越函の古の賢なる汝



入雲龍公孫勝

黄泥固小束と裁と
その花ひのて酔酔の
像その実と解た
十方貫これ
仙術のとも



地煞星七十二員
之内 地冥星

神醫安道全

此一個原建康府の人家醫法と業として病人逢ふて首と頑薬餌と配さい
をも胸ハ四々の内疾ハ々の外腫とく治りしは先年張順の母の疽を
即療せし功を稱て是端宋公怪腫小煩らるを存ひ張順府へ走て請迎ふんと
家小至るを愛妓李巧奴小媼着して別離の情柳 殆苦ひる身と多の發旅
の妨らんと巧奴が分宴小來後と浪裡が白又跳らる水も鳴きも斬害し却て
壁小鮮血と漆ぬ巧奴を殺せ及の本道全と記し一身故郷小安難く心と
決て水泊小奔る而て宋公病と視笑を刺と用ると一旬もぬ小全快て容體
飲食素の如し是餘の劑能右小方らば

天罡星三十六員
之内 天兩星

入雲龍公孫勝

此一個原濮州の人多一清先生と号ま二仙山羅真人の仙門小投雲霧風雨と
呼起を夏と學て厥術最自在るれ入雲龍と綽号し稱小身の丈八尺小剃て殊小
武藝と琢磨せり晁蓋小力と勸せ黄泥固小獲財と色難と避て水泊小入じが
念と母小苦めを再二仙山藏とるも梁山縁最強きといふせん頭て高唐州の戦小
高廉小初術と碎縛有は佐光と放て異獸と追退有は雷火とむとと神兵と
焼く芒碭山の魔軍小對ふ初め八陣と布て項充李衮と擒お色后小魔
將攀瑞と降伏して門下とるを軍慮智多星といふ更と肩立て二百八個の
指南と

九紋龍史進

身九龍の白玉水
游ぶが像く性ハ
百虎の鉄石山
穴小奇火坑
中も跳投り刀山
小も隠跡る小
毛頭怕血色
なこれガ
うも小英名まま
高うて脊小駭る龍と
ゆるとも小絳霄や疾らん
誉めんとすれども舌の根の
昧むりの豪傑る



跳澗虎陳達

批く云百八
煩惱の中貪欲
最剛く大象も
馳得る奮雷の碎
や此人史家村小
馳せるの勢
寒小三
毒の
首領



天罡星三十六
買之内天微星

九紋龍史進

此一個花陰縣史家邨柳太公の嫡胤身の點墨未表て俗流九紋龍の綽号
其首少賣藥李忠が棍錘を學び尾少旅客王進が武藝十八盤の點換を受て
筋骨是も鍊熟を納涼風裡小華山の賊話と听出間夫借と合柳と賊首
陳達と擡ち朱武楊春と劫を而て后小三賊と和を締水魚と縣尉が炮を
解き一遭小華の山寨小遁と存延安府小赴途中魯達小値て義宴を
設け南浪北漂とて后梁山泊小豪社を結び宋公明が手足と成高童偕が
慢軍と扼ぎ借小天子小帰順とて遼国蕪城小向る明玉明済を一刀小
四断とる方臘が潤州小猛將沈剛と斬えと万夫不當の豪傑也

地煞星七十二
買之内地周星

跳澗虎陳達

此一個の鄴城の人鎗棒と能き外術あつて澗を跳高を踏昔年少の比
鄴城の西小涉百尺計の双流の深き澗ありとて五十西の銀賭とて尺一
跨小跳踏と流俗これ小感と驚き綽号と跳澗虎と呼稱と朱武
楊春と少華山小賊主とて威と振ふこと六七年半の村小史進と
争ひ朱武と助才小和睦と遂げ秋去春の来り小豪傑を琢くらち
画工王義少小事より鎧の糸口おれをめて史進智深が災生下西岳の
窟華州の城戦流を水滸の劔戟此軍中お加えと抜群の棒きと宋徳呉
智の最頼着さ小心偏小傾きと水泊小帰伏せり

花和尚魯智深

酒樓小婦と
救つて是魚の為
るしん 禅場小童酒と
掌とと持戒の僧の楯
香臭き小十陪淨し
二王の體の赤と看てん
借みまうとあざける



菜園小柳と接ぐ、疎蘿菖蒲より最輕し
戲中自ら世間とて怕さむ善なる此俚

小霸王周通

唐土の方言で謂倒さ山と隔て火と
把て燧燭續で何の那のと聞の帷
閑れ、賽間恋あしむと
やの野の雉鉄炮お伴
和尚説法婚禮の夜
情なき邪端
戒と有
とん



天罡星三十六
員之内天孤星

花和尚魯智深

此一個經畧府提轄。姓魯名智深。性飽。實直。酒を嗜む。長鯨。百川。私奔。趙員外。身を詫。五臺山。桑門。化て。法号。智深。號。背。花の點墨。或。和尚。呼讚。錫鉢。水雲の身。東京。大相国寺。菜园。看守。擻會。大株柳。根起。豹子頭。驚。芥。諸邦。行脚。九紋龍。義盟。結。二龍山。寶珠寺。賊首。成。兩春秋。遂。天子の臣。四逆賊。伐。臨。河北。田虎。州郡。征。蓋州。城。太守。樞密。鈕文忠。打殺。

上十五止

汾陽の軍。魔軍の大將。神駒子。馬靈。擒。又。江南。征。功。天僧の教。指。受。幫源洞。深峪。賊主。方臘。捕。是。以て。説。百八。武勇の功。此。大和尚。超。四海。全。平均。軍。收。歸。途。杭州。六和寺。一泊。夜半。至。江上。鳴。和尚。忽。驚。傍。居。僧。問。潮信。る。和尚。欣。然。一。笑。吾。往。生。の時。至。坐。臥。布。袈。裟。纏。端。坐。合。掌。念。佛。眠。如。成。佛。朝。廷。尊。信。御。勅。使。の。礼。義。列。照。暨。大。禪。師。と。謚。せし。

地盤星七十二
敗の内地空星

小霸王周通

此一個の洪州の入りたるも、青州桃花山を奪て賊の主領となり。自小霸王を
 立号せし。而して茲の雷威を傲と。六七年或天李忠と伴のふて山陣小請
 して寨勢をとりし十陪せり。街とをり。途小横行きり。桃花村を
 刘家に娘小強姻せんと。小嘍囉殿々延俱ひ新鮮小投来り。祝燕夜
 と共小闌る。响る春心の動りや。銷金帳を左右ふり。投らんとまれ斯い
 小美人変て羅刹の像と和尚とを。却てこれ小説破られ也。金身義を米
 れり。稍年あつて呼延灼敗走り。宇の邨小寒宿。夜烏驢と小良馬と盜と大支
 此小振起て青州城の圍を受し。三山偕小合兵。猶水泊扶と得て忠義堂小座と連り

